

令和  
6年度

# 各特別委員会の 年間調査テーマ

半田市議会では、市の課題の解決に向けて、課題を調査するための特別委員会を立ち上げ、調査・研究を1年間行い、市に対して提言をしています。今年度の委員会と調査目的については以下のとおりです。

## 歴史・文化を活用 したまちづくり 調査特別委員会

半田市の先人達は、私たちにたくさん歴史と文化を遺してくれました。調査が不十分なものもありますが、すべて私たち市民の財産です。

この財産は、故郷への愛や誇りを引出す力を秘めています。半田市議会は、この可能性を引出し、まちづくりに活かすために「歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会」を設置しました。既に、先進事例の研究を始めています。

文化庁においても、同様の趣旨で、「文化財保存活用地域計画」の策定を推進しています。既に全国で669自治体が計画をつくり、文化庁から認証を受けています。愛知県下でも7自治体の取組みがあります。この地域計画の策定事例も参考にしながら、まちの魅力づくりを見直していきたく考えています。

先進事例研究は、文化財保存活用地域計画の目的設定の考え方、歴史・文化の活用事

例、関係部署との連携の仕組みなどを学ばせていただきたく考えています。

これらの先進事例の中には、総合計画などの計画とのリンクや組織的連携を重視しているもの、民間や大学との共同研究事例など主要施策として捉えているものもあり、大いに参考にさせていただきま

す。また、事例の中には、市民参画や次世代への継承を重視しているケースもたくさんあります。それぞれの計画に携わっている方々の熱意を学び、半田市に役立つ提言に繋がっていきます。



## 公共空間の有効活用 調査特別委員会

名鉄知多半田駅周辺は、知多半島の核都市の中心として日常的に賑わっています。しかし、人口減少や車中心の生活等により都市機能が低下したため、平成2年度から27年度にかけて区画整理事業を行い、併せて民間のクラシティブイがオープンしました。しかし、現在のところ賑わいが戻ってきている状況にはありません。実際に名鉄知多半田駅東側から泉線沿線、JR半田駅周辺にかけて、公共空間、空き店舗、低未利用地など、まちづくりを進めるうえで貴重な資源が蓄積されていますが、有効活用されていない現状があると考えます。

令和5年度に半田市が行ったワークショップでは、中心市街地に人と交流が出来る場、休憩できる居場所、食べ歩きやアクティビティといった「静」と「動」の両方が叶う空間を求める声が多くあり、特に知多半田駅前ロータリーにおいては、交通機

関だけでなく、こうした人々の活動を支える広場機能や、JR半田駅に繋がる動線としての賑わいづくりなどが期待されています。

令和5年度に半田市中心市街地活性化推進方針が策定され、今後は知多半田駅前ロータリーのリニューアルが計画されているなど、中心市街地の活性化に向けて新たに動き出しています。そこで当委員会では、公共空間の有効活用に関心のある民間企業や官民連携による取組みも考えながら、人々が集まる賑やかな中心市街地になるよう、居心地のよい公共空間について調査研究を行います。

